

2007年に岡山市に本部がある国際協力NGOのAMD A<sup>※1</sup>（アムダ）と支援協定を結び、組合員募金をもとに緊急支援活動への支援金拠出を行なっている、おかやまコープ。10年10月からは、さらに「ザンビアプロジェクト」への支援も開始し、結び付きを深めている。AMD Aの支援内容と活動への思いを関係者に聞いた。

## 岡山とザンビアとの チタンザーネ

「ザンビア共和国にも、『相互扶助』を意味する『チタンザーネ』という言葉があります。今回の支援は、おかやまコープの皆さんと現地の女性たちの間に生まれたチタンザーネ。募金をいただくだけではなく、彼女たちがおかやまコープの組合員さんのために何ができるかを考えるという宿題をいただいたと思っています」

2010年10月1日、おかやまコープが開催した「AMD A・MIND S（アムダ社会開発機構・マインズ）支援キックオフの集い」で、AMD Aグループ代表の菅波茂<sup>すがなむしげ</sup>さんはそうあいさつした。

AMD Aとは、岡山県に本部を置き、世界各地の被災地や紛争地域で



おかやまコープ理事長の三橋幸夫さんより、AMD Aグループ代表の菅波茂さんへザンビアへの支援金が贈呈された。

の緊急救援活動、復興支援、自立支援などの人道支援活動を行なう国際協力NGO。おかやまコープは、07年10月にAMD Aと支援協定を締結している。毎年10月を募金月間とし、これを財源にした「おかやまコープ国際協力支援基金（AMD A基金）」をつくり、緊急支援活動時には、ここから支援金を拠出している。「きっかけは『世界中で活動するAMD Aを、おかやまコープも応援してほしい』という組合員さんからの1本の電話でした。海外で大きな災害が起こるとAMD Aは緊急医療支援を開始しますが、その様子は地元メディアによつて岡山駅を出発するところから詳細に報道されるほど、岡山では知名度の高いNGOです。おかやまコープでは国際支援活動として二十数年前からユニセフを支援してきましたが、その声を

## 生協がつなく 地域と人びと

# 「途上国のために何かしたい」を形にする岡山発の国際貢献

## おかやまコープ



店舗設置の募金箱には、AMD Aの現地での活動を知らせる写真が使用されている。



ザンビア共和国  
人口：1,262万人（2008年）  
首都：ルサカ（人口約140万人）

おかやまコープ店舗（コープ鴨方）内に置かれている、AMD A募金を呼び掛ける組合員手作りのパネル。

おかやまコープの組合員に配られる募金袋。支援の詳細などが分かりやすく記されている。注文書でも1口200円から募金できるが、募金袋を通じての寄付が全体の3分の2を占める。

AMDA (The Association of Medical Doctors of Asia) 募金袋

「AMDA (アムダ) 募金にご協力ください」

2010年10月

TEL 086-256-2570

受け、AMDAへの支援も検討しました。岡山県に拠点があり、活動が目に見える、交流ができることなどを考慮した結果、基金をつくり緊急支援活動の際に寄付を行なうことが決まったのです」と、おかやまコープ・組合員活動グループの加百智津子さんは支援のきっかけを話す。

## 女性として、母として 共に願う平和な地域づくり

AMDA基金からの緊急支援金は、スタッフの移動費用や現地での医療品調達など、活動立ち上げの費用として使われる。協定に先駆けて行なつた07年7月の緊急支援金を合わせると、基金からの支援は10年8月までに19回、930万円に達した。

そして、緊急支援にとどまらず、AMDAが途上国で展開する継続

的な活動も応援しようと10年から新たに始まったのが、アフリカ南部にあるザンビア共和国への支援だ。

「AMDAは開発途上国の貧困の解消と世界平和を目指し、継続的な活動を6カ国で展開しています。中でもザンビアのプロジェクトは、HIVや結核対策に加え、女性の自立や子どもの教育機会を広げるような活動にも力を入れています。遠いアフリカの国であつても、女性として母親として願うのは、子どもたちが安心して暮らせる地域を築くこと。その願いを共有し、ザンビアの地域づくりに貢献していきたい」(加百さん)

「AMDA・MINDS支援キックオフの集い」では、HIVと結核患者への医療支援ボランティアの人材育成のほか、女性の自立を目指した裁縫やパソコン教室、学校に通えない子どものための教室の開設などを目

## ザンビアの女性たちと、おかやまコープとの間に生まれる交流が楽しみです

AMDA グループ代表  
菅波 茂さん



日本とザンビアは、宗教や文化、政治、経済状況など全く異なる国です。でも、おかやまコープの組合員さんとザンビアの女性たちには3つの共通点を見いだすことができます。1つは「女性同士であること」、2つ目は「地域ぐるみで問題に取り組んでいること」、そして「相互扶助の実践」です。

この3つを共有することで、一方的な支援に終わらず、安心できる地域社会をつくるため互いにすべきことを考えることができます。今回は、おかやまコープの皆さんからの支援を受けていますが、そのお返しに何が出来るかをザンビアの女性たちと考えていきます。手始めに、おかやまコープがどんな組織かを伝える予定です。そこから何が生まれ、組合員さんとどんな交流が出来るかを私自身も楽しみにしています。

私は「市民参加型人道支援」という言葉をよく口にします。これは、私たちのような国際協力団体が途上国で活動することだけで平和な世界が築けるのではなく、「募金などで支援をしてくれる一人ひとりの市民が動くことが平和な社会を築く力になる」という意味を込めています。今後、AMDAが取得する「国連経済社会理事会総合協議資格」を通して、おかやまコープの皆さんと一緒に、途上国のために何が出来るかを発信することを目指したいですね。



おかやまコープ  
組合員活動グループ  
加百智津子さん

的とした募金が100万円手渡された。募金を集めるだけでなく活動を伝え、支援の輪を広げる



国際貢献先進県を目指す岡山県は、「国際貢献活動の推進に関する条例」も制定されている

力を入れている。AMDAをはじめ100以上の国際貢献団体が活動し、市民による支援活動も活発だ。「貧困や病気などで苦しむ途上国の様子を知らると、心が痛み『何かしあてたい』といった思いを多くの人が抱きます。しかし、行動に移すことはなかなか難しいですね。AMDAへの支援は、その思いを形にすることにつながっています」(加百さん)

募金を集めるだけでなく、エリアごとにAMDAを知るための学習

会を開催したり、夏休みを利用して組合員の子どもたちが事務局を訪問したり、10月の募金月間には店舗で活動を紹介するパネル展示をするなど、多くの催しが行なわれている。また、国際支援活動の区切りがつくたびに報告会が開かれるなど、この3年間で組合員とAMDAの結び付きはより深くなった。

「AMDAとの関係ができたことは、組合員さんが世界の現状を知り、募金だけにとどまらない活動を広げていくいい機会になりました。生協の強みは、子どもから年配の方まで幅広い年齢層へメッセージを送れることです。その強みを生かして、これからもAMDAとの関係を密にしなから、息の長い支援を続けていきたいと思っています」

加百さんは、これからの抱負をそう話してくれた。

(文・写真 筑波君枝)